

## 再任のご挨拶

同窓会長 宮川 清司

本年度の理事会・評議会において、「同窓会として、大きな仕事を手がけている折りにつき、引き続いて現職にとどまり、その責任を果たすように……」との理由で推挙いただき、平成11年度、12年度の2か年間にわたり、会長職を再びお引受けすることに致しました。役員及び会員の皆様のご理解とご支援を得て、微力を尽くす所存です。よろしく申し上げます。



さて、私たち同窓会の「大きな仕事」のひとつは岐阜大学開学50周年記念事業への協力と参加です。そのための募金活動を主体的に受けとめ、積極的に展開して参りました。その結果、当初の見込みを大きく上回る浄財をいただくことができ、お陰さまをもちまして責任を果たすことができました。

6月1日を中心に記念式典をはじめ、諸行事が滞りなく盛大に執り行われました。事業会を構成する一員の代表として、参加させて頂きました。21世紀を志向し、地域に密着した活力ある新しい大学づくりに取り組む先生方の懸命な姿に接し、深い感動を覚えました。あらためて今後とも同窓会としての支援態勢を強化しなければ、と思いました。

これひとえにこの事業の趣旨に賛同し、ご協力頂いた会員の皆様のお陰です。厚く心からお礼申し上げます次第です。

第二は、同窓会員名簿の発刊事業です。昭和56年発刊の名簿を基礎にしながら、準会員である在学生を含むその後の卒業生のすべてを網羅した名簿を作成する作業が目下急ピッチで進めております。11月発刊が目標です。この名簿はすべての会員の動静をより正確に把握するために、特別委員会を設置し、各同窓会の関係者のご協力を得ての献身的な努力の成果であり、また結晶です。有

効なご活用を期待します。

20世紀末を迎え、同窓会をめぐる内外の情勢が激変しています。国家財政の窮迫による学生定員の大幅削減措置による新入会員の減少。教員採用数が激減している現状にてらして、教員養成を目的とした母校の教育学部としての在り方そのものが問われています。

また、かつての主流であった師範系会員数の自然減、大学系会員の飛躍的な増大。卒業生、すなわち同窓会員のすべてが教育界に就職していた時代は過去のものとなり、進路先は各種多様となってきました。

同窓会の組織、財政運営、諸事業の策定にあたり、こうした構造的変化に、中・長期的展望をもって、どのように対応していくかが大きな課題となっています。年に一度、全会員に配布しているこの会報に諸情報を提供し、ご理解を得ながら半歩でも前進すべく努力を傾注したいと思っています。よろしく願い申し上げます。

（平成11年11月）



## 平成11年度 評議会記録

開催日時：平成11年5月22日(土) 13時30分～15時00分

場 所：岐阜大学教育学部本館第1会議室

来 賓：教育学部長 木下康彦 先生 教育学部評議員 小林正典 先生

1. 開会のことば 小沼 亮一 副会長
2. 会長挨拶 宮川 清司 会長
3. 来賓挨拶 教育学部長 木下康彦 先生 教育学部評議員 小林正典 先生  
最近の大学・教育学部をめぐる諸問題ならびに諸課題とそれへの対応等について約30分にわたり説明を聞いた。評議員の方々は、大学改革問題に関する重大さの認識を深め、同窓会として支援できることは何かについて質疑・意見交換をした。
4. 議長選出 小林 光臣理事を選出した。
5. 議 事
  - (1)平成10年度事業報告
    - ①総務部会 大学開学50周年記念事業に対する同窓会への負担金(募金)ならびに諸協力について対応してきた。会員名簿発刊(11月を予定)をすすめるために、組織部会との合同の名簿編集委員会を結成した。
    - ②組織部会 最新で最も正しい会員名簿を発刊するために、会員に正しい情報の依頼ならびにチェックを依頼してきた。
    - ③事業部会 教育実践研究入賞論文集-第14集-を刊行した。
    - ④広報部会 会報第4号を発行した。会員への発送は業者委託で行った。
  - (2)平成10年度決算報告・監査報告  
平成10年度決算報告と監査報告があり、これを承認した。
  - (3)役員改選
    - ・会長候補者推挙委員会が理事会に候補者を推挙した。理事会はこれを受け、評議会に候補者を提案し、評議会は満場一致で会長を決定した。
    - ・新会長は、宮川 清司氏(再任)となった。
    - ・副会長は、会長が評議会に指名し、評議会は満場一致でこれを決定した。
    - ・幹事は、会長が理事会に指名し、理事会は満場一致でこれを決定した。
    - ・監査は、理事会において候補者を推挙し、評議会の議を経て決定した。
    - ・顧問に後藤忠彦氏と三井淳藏氏を推薦した。
  - (4)平成11年度事業計画
    - ①総務部会 会員名簿発刊(11月末日を予定)をすすめる。
    - ②組織部会 会員名簿発刊(11月末日を予定)をすすめる。
    - ③事業部会 教育実践研究入賞論文集-第15集-を刊行する。
    - ④広報部会 会報第5号を発行する。
  - (5)平成11年度予算
    - ・平成11年度予算案の提案があり、これを承認した。
  - (6)その他
    - ・後藤忠彦前教育学部長より、教育学部を取り巻く現況等についての話があった。
6. 閉会のことば 小沼 亮一 副会長

## 教育学部同窓会員名簿発刊について

同窓会総務部長 渡邊 義行

岐阜大学開学50周年記念事業をすすめるにあたり、教育学部同窓会では会員の皆様に募金の呼びかけをいたしました。その結果、多くの方々のご協力を得ることができました。お陰様で教育学部分担額を越える募金額となりました。そこで、平成10年度の同窓会評議会において大学開学記念に協賛して、学部同窓会会員名簿を18年振りに発刊しその援助の一部としてはどうかという提案をしました。評議会の賛同を得て、名簿編集委員会（総務部会と組織部会の合同委員会）を結成し、名簿刊行に向けて作業をすすめてまいりました。完成を平成11年11月下旬とし、現在、会員名簿の初稿が出たところです。平成11年9月15日敬老の日でかつ豪雨の警報が出ている中にもかかわらず、師範年度代表ならびに各講座代表に集まっておいただき校正原稿をお渡ししました。若干作業が遅れ気味ですが、久しぶりの名簿発刊に向けて鋭意努力中です。この名簿の購入希望者の方には4,000円で配布することになっています。すでに2千数百人の方の申し込みがあります。今後の購入希望の方には若干の在庫がありますので、早めに事務局まで申し込んでください。



## 平成10年度教育実践研究助成事業のまとめ

事業部会長 大澤 肇

特色のある同窓会事業として、各方面からの賛同や期待を寄せられている平成10年度の「教育実践研究助成事業」は、入賞論文集(14集)の発刊をもって完結しました。以下、その概要を報告します。

この事業は、「岐阜県における義務教育の振興、充実を期す」ことを目的にして、学校現場での教職員の真摯なとりくみの発表の場として、また、優れた実践から学び、活用できる機会の提供をようお願いして以来14年が経過しました。この間、岐阜県教育委員会、市町村教育委員会、教育センター、教育事務所、校長会等の全面的なご理解とご協力、ご指導を得て、この事業が通称「岐大論文」として、年々、教育現場で定着していることを大変喜んでます。

### ◆応募者総数 1471名

・応募者総数1471名(昨年度1417)実践論文総数1457点(1381)、応募者及び論文数とも増加しています。何かと厳しい状況下にある教職員の皆さんが、教育課題をふまえ、将来の展望に立って、創造的な教育実践に地道な努力をされていることの証といえます。

・1471名のうち、世代別では20代553名、30代565名、40代306名、50代46名の応募者があり、いずれの世代も増加しています。その中で総数の76%が20代・30代で占めますが、学校運営の担い手として重要な役割を果たす40代の応募が、昨年度に引き続き増加していることは特筆すべきことです。

### ◆多様な実践研究へのとりくみ

・研究内容には、全教科、全領域に亘り、児童生徒の成長と変容の姿と結びつけながら継続的、累積的に実践内容を集約したものが多くみられました。

主題も、情報化、国際化、環境、福祉等の社会の変化に対応して多様化しています。また、総合的学習など新学習指導要領の実施に向けた内容を取り上げるなど意欲的で、進取な質の高さを誇る論文が数多くみられます。

別掲に、入賞者一覧表を提示しましたので、機会をみて一読して頂ければ幸いです。

### ◆入賞論文集(14)の発刊

諸経費の縮減を試みながら、論文集(129ページ)を発刊しました。入賞論文の概要、歴代入賞者名簿(主題名、教科領域等記載)を登載しました。実践研究の内容や研究の動向の把握など、研究交流資料として活用して頂ければと願って収録しました。この論文集は、県内の全小中学校、教育関係機関、入賞者、同窓会役員等に贈呈しています。

平成11年度(15回)の事業も、10年度に準じて実施いたします。

# 教育学部の現状と課題

岐阜大学教育学部長 木下 康彦

## 1 大学改革の中で

昨年度の会報では大学審議会の審議会の答申「21世紀の大学像と今後の改革方策について」で提起された課題について触れました。答申の内容に関しては、大学設置基準一部改正などによって、各大学で早急に対応しなければならないものもあります。岐阜大学では大学改革検討委員会を平成11年4月に発足させ、機構運営面と研究教育面の二つの分科会で改革の具体的な検討に入りました。学長、評議会、部局長、各学部教授会など大学組織運営の在り方、外部評価の受け入れ、履修単位、カリキュラムの弾力化、授業方法の改善など全学で取り組まなければならない課題は山積しています。

## 2 教員養成系大学・学部の課題

教育学部独自の改革の課題もあります。教育職員養成審議会の答申は教員養成に関する種々の改善の提言を行っております。少子化の影響で教員採用数は全国的に減少を続けています。岐阜県でも本年度の教員採用数は小中学校併せて50人ということです。本学部の卒業生の数をはるかに下回っています。国立大学の教員養成課程の学生定員は来年度まで3年間で5000人削減されます。それでも教員養成課程卒業の学生の多くが教員になることができないのが現状です。

今、日本の学校教育は様々な問題を抱えています。この学校教育の問題に立ち向かうことができる意欲ある教員が求められています。教員養成課程では、時代の要請に応え、教育現場で優れた能力を発揮できるような人材を養成しなければなりません。こうした中で岐阜大学教育学部も学部改革、大学教育改革を早急に進めようとしています。

## 3 岐阜大学教育学部の改革とその課題

大学院については平成7・8年に学校教育専修、各教科教育専修、平成10年に障害児教育専修が設置されています。大学審で出された学部3年卒業制度も含め学部・大学院の一貫カリキュラムによる体系的な教員養成も検討課題です。また平成9年度から試行してる学部3年次編入の社会人入学も多様な社会

経験のある教員養成という観点から進めるべきものと考えています。それは現在実施されている現職教員・教育関係者の大学院受け入れとも関連します。

#### 大学院の夜間・遠隔授業と公開講座の遠隔授業

今年度から試行というかたちで始めた大学院の遠隔・夜間授業は岐阜大学の教室と高山のサテライト教室を結んで行われています。大学における遠隔授業、また夜間授業を行っている大学はありますが、大学院修士課程の授業を遠隔で行い、修士の学位が取得できるのは本学の教育学部が最初です。それだけに年間を通じてのサテライト教室の管理、授業時間の組み方など難しい問題があります。遠隔に関わる一部の講座に負担が集中するということがあります。しかし、この新しい試みは文部省や他大学からも注目を集めています。来年度は高山に加え、各務原、東濃にもサテライトを設け、多地点を結ぶ遠隔授業に広げる予定です。現職教員等が勤務しながら大学院で学ぶ機会をできるだけ拡大する、「いつでも、どこでも」学習機会を選択できるという21世紀の生涯学習社会に向けてのシステム構築の試みといえます。

今後は現職教員等の資質向上のため、大学院の定員を増やし、教員の職業的専門性を高めるため大学院の教育の充実を目指すことにしています。なお大学院の専用の建物、教室等ははまだ整備されずにいますが、今後も概算要求に加え設備等の充実を図る予定です。

公開講座は引き続き、専修免取得認定講座を開催しています。これも遠隔と大学間連携という岐阜教育学部独自の形態をとっています。公開講座は、高山、各務原、東濃、新潟大学、香川大学を結んで開かれます。

#### 新講座・新課程

昨年度の会報で紹介しましたが、平成9年度に学校教育教員養成課程に生涯教育講座を、平成10年度には学校教育教員養成課程と並ぶ生涯教育課程を設けました。生涯教育講座の学生は現在3年生が、生涯教育課程の学生は現在2年生が最高学年です。前者が教員免許取得を卒業要件としますが、後者は教員免許取得を卒業要件としません。ここでは、学部の全講座の協力を得て、生涯学習計画、生涯学習心理、情報、健康・スポーツ、環境、国際理解など様々な専門分野が選択できるよう科目が用意されていますが、生涯教育講座や生涯教育課程では学芸員、認定心理士、スポーツ指導員など社会教育関連の資格が取得できるよう科目が開講されています。しかし、教職免許とこれらの資格を併せて取得しようとするカリキュラムがかなり過密になります。また設定された専門分野は従来の学校教育の講座の専門分野のいくつかにまたがる場合もあり、指導体制を作り上げるには、全学部教官の意識の改革も必要です。現在の

厳しい状況から教職以外への道に進む学生が増えていることを考えると、この生涯教育課程のカリキュラムを更に充実し、学校教育にとらわれない広い意味での「教育」の専門家をどう育成するかが問われています。指導体制を確立する上で従来の講座単位のセクショナリズムをどう払拭するかが課題です。

#### 地域との連携の強化

大学院にこられる現職教員の方々には勤務を免除され2年のうち1年間はフルタイム大学で学べる方、夜間・遠隔の大学院授業等で単位を取得される方の2種類のパターンがありますが、いずれも県や市町村教育委員会、勤務校の管理職、同僚の理解がないと研修・研究は不可能です。教育実習や現職教員の大学院入学等で大学は教育委員会と密接な連携をとる努力をしています。また、教員養成大学は、地域の教育界への様々な貢献も求められています。学校教育、教科教育に関しては、大学は教育委員会や学校現場と協力して、実践的研究・活動を続けていかなければなりません。大学が地域から孤立して専門的研究のみを行うということはこれからの大学のあり方として許されないことです。県教育センター等と大学の共同研究も必要です。卒業生の進路を考えると、教育実習だけでなく地方行政機関や企業などでの実習制度（インターンシップ）を教育学部も導入する必要があります。ここでも地域との連携を強化しなければなりません。

教育学部の現状と課題についていくつか報告いたしました。今後とも同窓会の皆様が教育学部の発展にご支援を下さるようお願いいたします。





# 「岐阜大学開学50周年記念事業」の報告

会長 宮川 清司

岐阜大学開学50周年記念事業は、6月1日を中心にして約1か月間にわたり、多数の参加者を得て、下記の内容で盛大に実施されました。

## ■記念式典・記念祝賀会

## ■記念誌「岐阜大学の50年」発行

## ■記念物「ならぶこと—Standing in line」彫刻の制作

作者：林 武史氏（東京芸術大学美術学部講師・岐阜市鷺山出身）  
大学正面庭園に設置

## ■記念行事

- ・美術展（絵画・彫刻部門、写真部門・写真コンテスト）
- ・写真展「岐阜大学の歩み」
- ・講演会 木村尚三郎氏「21世紀の人間像」
- ・「岐阜大学祝典歌」制定披露演奏会

## ■大学公開等事業

- ・大学周回マラソン大会及び市民体力診断
- ・岐阜大学付属施設、研究室見学ツアー
- ・市民講座「障害者（児）高齢者のよりよい生活をめざして」
- ・市民講座「障害者（児）高齢者支援の最前線—人と動物とのふれあいと福祉の増進」
- ・教育学部シンポジウム「こどもがきれる」
- ・VRによる「世界遺産—白川郷—」
- ・市民講座「いま、地球環境が危ない」
- ・パネル展示による市民交流会「自然環境との共生」
- ・地域科学部公開講座「20世紀とは何だったのか」
- ・農学部公開「農場へ行ってガーデニングとアイスクリーム作りをしよう」
- ・農学部公開シンポジウム「新農業基本法と地域農業振興」
- ・医学部公開「宇宙医学と反射研究施設」

◆ご承知のように、これらの諸事業の企画及び実施にあたり、教育学部同窓会は農学部、工学部、医学部と共同して「事業会（会長新藤秀逸氏）」を結成し、資金その他について協力して参りました。事業に要する経費は総額約6000万円とし、関係各界に募金のよびかけをしました。教育学部としては、事業会長名と同窓会長名により、すべての会員に募金の呼び掛けを致しました。その結果、お陰さまをもちまして目標額を超えることができ、当初予定の分担額（500万円）を大学当局に所定期日に納入し、責任を果たすことができました。

◆去る9月21日に最後の「事業会役員会」が開催され、上記実施事業及び目標額に達した会計の詳細な報告がありました。席上、金城学長より「大成功であった。各同窓会の皆様のお陰と深く感謝する。」新藤会長よりは「母校の発展を願う同窓生の心が結集され、成功した。この気持ちを大事にしていきたい。」との挨拶がありました。

◆さて、教育学部同窓会を窓口として実施した募金活動の結果、目標額を超えた金額のうち、300万円は18年ぶりに発刊する「会員名簿」作成費の一部として支出し、諸経費を差し引いた剰余金については「基金」として別枠で積み立てておきたいと思えます。その用途につきましては時間をかけて論議し、よい結論を得たいと考えております。なお、詳細な収支決算は次回の理事会・評議会にて報告させていただく予定です。ご了解ください。

◆ご寄付頂いたすべての方々に対して、それぞれその都度、受領のお知らせとお礼を申し上げるのが本意ですが、諸般の事情により、会報第5号の別刷りとし、お名前のみ一括して掲載させていただきました。母校の発展を願う皆様方の熱いお気持ちとご厚志に対して、心から感謝申し上げます。ありがとうございました。

◆大学当局より「記念誌」の贈呈がありました。部数に限りがありましたので、2口以上の寄付者の方に8月末にお贈り致しました。

以上をもちまして「岐阜大学開学50周年記念事業」の報告とさせていただきます。



◆記念式典・記念講演

内外の来賓600余名を  
迎えて盛大に挙行された。  
（6月1日・国際会議場）

◆記念モニュメント

「ならぶこと

—Stand in line」

制作：林 武史氏

（6月1日除幕）



◆大学周回マラソン大会

一般参加者447名が汗を  
流す。この日、市民体力  
検査も実施された。

（5月23日）

## 平成11年度教育学部教員採用試験結果(中間状況)

同窓会総務部長 渡邊 義行

平成11年度教育学部の岐阜県教員採用第1次の試験結果が9月22日現在で出ている。第2次試験の実施はすでに終わっているが、その結果は10月下旬に発表が予定されている。現段階においては、第1次試験の結果しか掌握できないので、中間状況という形で報告をする。なお、平成11年度の岐阜県教員採用予定数は小学校25名、中学校25名の計50名と公表されている。県教委としてのこの数字は過去最も少ない数である。岐阜大学にとってもその煽りを直接受けていくことになる。

図をご覧ください。この図は、教育学部学生(現役学生)の岐阜県教員採用試験の受験者に対する合格率の8年間の年次推移である。合格率がいかに著しく低下してきたかがわかる。教員への道はどんどん遠くなっている。なお、平成11年度の学部学生の1次合格率は16.4%であり、平成10年度の16.8%とほとんど同じである。しかし、2次試験における若干の不合格者がさらに予想されるので、平成11年度の最終合格率は平成10年度よりも低下するだろう。このことから、平成11年度の教育学部の教員採用状況は過去最低の状況といえよう。

表をご覧ください。現役大学院生の合格率は44.0%となっており、現役学部生よりは高い合格率であった。専修免を所有する教員が増えていることを願いたい。

このように狭き門である教員への道であることから、毎年毎年教員志望者の就職浪人を溜め込んでいくことになる。学部としての合格者を調べたところ、表1に示されたように40名であった。過年度生の受験者数は情報がないので合格率は算出できないが、それでも岐阜大学教育学部現役の卒業・修了生の1次合格者数とを総計すると74名となる。この数字は決して満足できるものではないが、1次試験合格者にとって岐阜県教育を担うのは岐阜大学教育学部であるという自負と責任は持ち続けなければならないだろう。現在では、この74名が2次試験に全員合格できることを願うのみである。

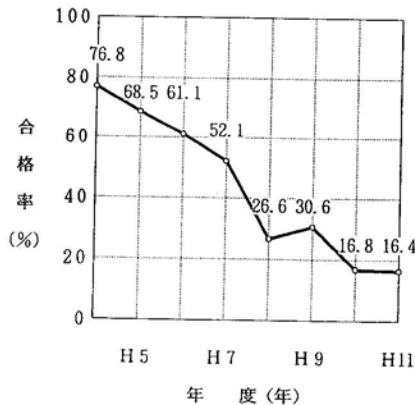
平成11年度の卒業生が定員340名の最後の年度となる。この340名のうち表に示したように教員採用試験の受験者数は140名であった。率にして41%である。残る59%の200名は教職以外の道に進むこととなる。不況で就職難の折、必死になって就職先を探していることと思われる。

一方、学部事務組織として数年前より就職専門員を配置し、さらに就職相談

室に室員を設け就職指導、就職開拓ならびに就職サービスに務めている。また、本年度から学部教授会のもと就職委員会を新設して、学生の就職に関する開拓等問題の解決にあたっているところである。今後、それら対応の成果が出る事が望まれる。  
(平成11年9月22日記)

平成11年度岐阜大学教育学部の  
岐阜県教員採用(小・中・高・養護)第1次試験結果

	現 役 学 生		過 年 度 生	
	学部生	大学院生	学部卒生	大学院修了生
受験者数	140	25	?	?
合格者数	23	11	35	5
合格率	16.43%	44.00%		
合格者数小計	34		40	
合格者総数	74			



教育学部生の岐阜県教員採用試験受験者に対する  
合格率の推移 (%)

但し、平成11年度は、1次試験の結果である。

## 各科トピックス

# 「濃飛の集い」 地理科同窓会

私たち地理科同窓会は、次のような経緯を経て現在も活動が続いている。

### 1. 「同窓会総会」として(昭和39年～49年)

昭和39年2月8日発足。大学の卒業論文発表の日に、親睦会を兼ね総会を開催。昭和44年から、同窓会機関誌「濃飛」を創刊。

### 2. 「濃飛の集い」を6ブロックに分け順に(昭和50年～平成8年)

昭和50年8月3日 岐阜市南市民会館で岐阜市の会員による第1回「濃飛の集い」が開催された。

開催日は毎年8月第1日曜日。会場は①岐阜市 ②飛騨地区 ③岐阜市外の岐阜地区 ④東濃地区 ⑤西濃地区 ⑥中濃地区とローテーションを組み、各地区の会員による地域の巡検や実践発表・講話を拝聴した。

この「濃飛の集い」の内容は機関誌「濃飛」に掲載され、会員に配布された。

三巡した頃から、同窓会をめぐる状況が発足当時とは大きく異なってきたことが話題となってきた。

それは、会員数の増大、教職に就かない会員、退職会員の増加、諸経費の増大、内容のマンネリ化等々。平成7年8月6日に開催された第21回「濃飛の集い」で、「地理学研究室同窓会の活性化を図るための組織・運営等の改善について」提案がだされ、諮問機関をつくり検討に入ることとなった。

平成8年8月4日第22回「濃飛の集い」において改善案が答申され承認された。

### 3. 同窓会「濃飛の集い」を卒業回生で順に(平成9年～現在)

平成9年8月2日第23回同窓会「濃飛の集い」が第29回生によって美濃紙の里会館で開催された。

規約の改正により、期日は8月の第1土曜日に変更された。

38歳になる回生の代議員が発起人となり、その回生が実行委員会を組織し、会場・内容を立案・運営を行うこととした。

平成10年8月1日第24回同窓会「濃飛の集い」は第30回生によって各務原市産業文化センターで開催。

平成11年8月7日第25回同窓会「濃飛の集い」は第31回生によって高富町四国山香りの森公園 香り会館で開催された。

(文責 澤島 昌彦)

## 各科トピックス

# 50周年記念事業 体育学科同窓会

体育学科同窓会では「学科創設50周年の記念事業」をしようということで、平成9年度に「記念事業実行委員会」を結成（総勢52名）し、事業計画を立て、事業を進めてきた。事業の内容は次の3事業とした。

### 1. 講演を含めた記念総会を開催する。

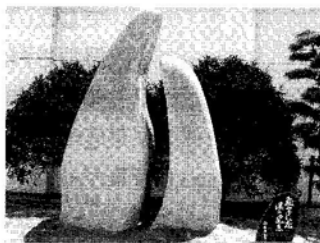
- (1)期日：平成11年11月13日（土） 14時～
- (2)場所：ホテル グランヴェール岐山
- (3)講師：積水化学陸上部監督 小出義雄氏

### 2. 記念誌を発行する。

- (1)内容：大学・学部・学科の沿革、各年次の大学生時代等
- (2)発行：平成11年12月の予定

### 3. モニュメントを建立する。

- (1)除幕式：平成11年7月3日（土）10時
- (2)素材：桜御影石（岐阜県恵那郡蛭川村  
博石館長 岩本哲臣氏 制作）  
石柱2体（高さ4.0m 約8トン  
高さ3.0m 約4トン）
- 3)タイトル：「温寂」
- 4)碑文：「飛山千里之志 濃水百年不息」  
（初代主任教授 橋本正一氏）
- (5)建立場所：体育館玄関付近



記念事業の主旨・募金の呼び掛けに大変多くの同窓生の協力を得ることができた。すでにモニュメントは大学へ寄贈の手続きを終え、現在記念誌の原稿の最終整理と記念総会の準備の段階である。体育学科の第1～3回生がほとんど健在の今、それらの人々のリーダーシップのもと、50回の卒業生の団結で、記念事業を挙行できることに誇りと感謝と喜びを分かち合っている。

（文責 渡邊 義行）

## 各同窓会の活動

### 国語科 (事務局 岐阜大学教育学部附属小学校 片山 誠吾)

昭和28年4月入学者による「二八国文科会」(会長・松野知文氏)が8月第4土曜日に開催。同窓会誌「ながら」を発行。

### 社会科(地理) (事務局 羽島市立竹鼻小学校 豊島 博)

(1)第25回同窓会「濃飛の集い」……第31回生(代表 白木 誠氏)が担当

・ 期日 平成11年8月7日(土)

・ 会場 山県郡高富町 四国山香りの森公園 香り会館

・ 内容 総会

講演 岐阜大学地理学助教授 大関 泰宏氏

体験活動 「花のリースづくり」……インストラクターの方の丁寧な指導のおかげで、大変楽しく活動ができた。お互いの作品を見合ったり、助け合ったり、和気霽々とした雰囲気でした。話題のアロマテラピー効果で、日頃のストレスも解消されたような心持ちがしました。

(2)機関紙「濃飛」第30号発刊

(3)関根 清先生退官記念事業 平成11年2月13日(土)

退官特集号「濃飛」の発刊

### 社会科(哲学) (事務局 岐阜市立加納小学校 山田 健司)

平成11年度の哲学科同窓会は、8月7日(土)「夏の集い」として、グランヴェール岐山にて開催された。出席者は26名。31年度卒業の方から平成7年度卒業の方まで幅の広い年代の集いとなった。

今回の同窓会のメインイベントは岐阜大学小林月子先生のご講演であった。内容は、少子高齢化社会と教育問題。日本の将来の人口の推移、結婚観、育児、介護などについて興味深く、意義あるお話をしていただき大変勉強になった。今日的な課題を自分の生活に直結するものとしてとらえるよい機会となった。

ご講演のあとは有志の者で会食をし、お互いの現況について語りあった。一年に一度の集いではあるが、心地よい涼風のようなものとして定着している。



**数学科** (事務局 岐阜市立陽南中学校 清水 憲雄)

(1)平成10年度活動報告

①総会

- ・期日 平成10年 5月10日(日)
- ・会場 教育学部本館7階 第1会議室
- ・記念講演 郡上郡高鷲村教育委員会 三島 義之氏
- ・実践研究発表 岐阜市立加納中学校 岩井 隆史氏(38回生)  
白鳥町立白鳥中学校 三島 晃陽氏(41回生)

②夏季研究会

- ・期日 平成10年 8月22日(土)
- ・会場 揖斐郡久瀬村 民宿「月夜谷山荘」
- ・実践研究発表 白川町立黒川小学校 福井 敏彦氏(38回生)  
池田町立池田中学校 宮下 直樹氏(44回生)

(2)平成11年度活動報告

①総会

- ・期日 平成11年 6月13日(日)
- ・会場 教育学部本館7階 第1会議室
- ・記念講演 県教委学校指導課課長補佐 中川 敏之氏
- ・実践研究発表 岐阜市立長良中学校 大坪 光氏(39回生)  
土岐市立駄知小学校 平出 朋代氏(45回生)

②夏季研究会

- ・期日 平成11年 8月7日(土)
- ・会場 加茂郡八百津町 民宿「志おみ山荘」
- ・実践研究発表 八百津町立八百津中学校 渡辺 出氏(40回生)  
美濃加茂市立加茂野小学校 鶴飼 純子氏(45回生)

**理科(物理)** (事務局 加茂郡八百津町立八百津小学校 鈴木 雅史)

物理科同窓会では、会員名簿の作成と総会の開催を2年に一度行っている。平成10年度は、10年11月に名簿の配布、11年1月に総会・懇親会を開催。大学からも4人の先生方に出席していただき、楽しく旧交を温めることが出来た。今回は、平成12年度に実施の予定。

## 理科(化学) (事務局 瑞浪市 県先端科学技術体験センター 華井 章裕)

(1)化学科同窓会総会及び「石野二三枝先生のご退官をお祝いする会」を計画している

- ・期日 平成12年5月7日(日)
- ・会場 岐阜市長良河畔 ホテル「十八楼」

(2)「岐阜かがく教育研究会」の活動

故五島先生が作られて20年以上になるこの会は、岐阜大学教育学部化学科卒業生を中心に50数名が加入している。活動は年1回の総会兼忘年会と研究発表会、高校部会と小中部会に分かれて月1回の研究会を実施している。真面目な研究だけでなく、それぞれの職場における悩みや相談ごと、雑談など、なかなか有意義な時間を過ごしていると自負している。

## 理科(生物) (事務局 岐阜大学教育学部附属中学校 林 伸彦)

(1)総会(隔年 8月上旬)

同窓会員の親睦及び研究実践の交流と最近の大学での卒業研究報告をおこなっている。最近では、8月22日に14回目の総会を岐阜大学柳戸会館で行った。

研究報告としては、千藤克彦氏(文化財保護センター)が「遺跡から発掘される生物化石」について報告。また、卒論の報告としては、山内研究室(吉田)と古屋研究室(澤口)から、それぞれ「カワラケアリの二倍体雄生殖腺」「カダヤシの卵黄形成」についての研究報告がされた。

親睦会では、お互いの近況を語り合うと同時に、環境へのアプローチの仕方も話題になり、危機感を煽るのではなく、自然のよさを子どもたちに伝え、そのすばらしさを残していきたいという思いにさせていくことが大切だということをお互いに確認し合った。

(2)機関誌「岐阜の生物」の発刊

これまで隔年発行していた機関誌を本年度から毎年発行とし、活動報告などをより密にしていくこととした。

## 音楽科 (事務局 大垣市荒尾町 棚橋 弘)

(1)第11回総会及び懇親会

- ・期日 平成10年11月8日(日)
- ・会場 ホテル グランヴェール岐山

・参加者 126名(内 現・旧の先生10名)

・内容 第11訂名簿発行配布

(2)本部役員会並びに理事会

・期日 平成11年8月29日(日)

・会場 岐阜市北部コミュニティセンター

(3)同窓会会報第29号発行(平成11年9月1日)全会員に郵送

**美術工芸科** (事務局 岐阜大学教育学部附属中学校 木村 充)

・現在までの活動は、3年に1回の年次代表者会の開催、美術工芸科の同窓会名簿の作成・発行を行っている。

・名簿については、3年ごとに更新を行い、会員の動向をつかんでいる。

・年次代表者会は、同窓会の運営や会員の動向の交流、同窓会名簿の発送作業などを行っている。

**体育科** (事務局 岐阜大学教育学部保健体育講座 渡邊 義行)

1 記念総会

・期日 平成11年11月13日(土)

・会場 ホテル グランヴェール岐山

・講演 積水化学陸上部監督 小出 義雄氏

(2)記念誌の発行

3 モニュメントの建立

・除幕式 平成11年7月3日(土)

**技術職業科** (事務局 岐阜大学教育学部附属中学校 吉田 竹虎)

・技術・職業学科では、3年毎に総会・親睦会を開催。同時に名簿を発行している。

・前回の総会は、平成8年に西濃地区で開催。

・平成11年度は、10月24日(日)岐阜地区で総会を開催。

中部事務機株会長辻 欣一氏を招き「これからの教育について思うこと」の講演を拝聴する。

**家政科** (事務局 岐阜市立鏡島小学校 佐藤 恵)

(1)平成11年度の活動

①総会

- ・期日 平成11年8月8日(日)
- ・会場 グランパール岐山
- ・参加 会員102名 恩師3名

②会員名簿の作成

- ・平成11年度版を作成、全会員に配布。

(2)今後の活動

①総会開催周期 5年毎

②会員名簿 毎年発行(年次代表者向け)

**英語英文科** (事務局 岐阜市立藍川東中学校 井村 晃)

平成5年度に続いて、平成9年度(平成10年1月24日)に同窓会を開催。原則として4年毎に開催している。次回は平成13年度の予定ではあるが、藤掛先生のご退官のため、総会を平成11年度末に計画。



— 編集後記 —

☆ 同窓会報・第5号のお届け

年1回の会報をお待ちかねの方も大変多いだろう。ようやくお届けすることができた。今回は母校開校50周年記念の特集記事を載せた。数々の記念事業、そのどれもが成功裡に終わったこと、改めて会員各位のご支援にお礼を申しあげたい。特にご厚志をいただいた先生方、財政事情窮乏とはいえ、受領書も発行せず申し訳ない。お名前を掲載することでお許しを。

☆ 教育学部の新たな挑戦

今年の卒業生340名、教員受験者140名、第一次合格者23名、これは岐阜県の教員採用結果の中間報告と渡辺総務部長が述べている。年々、採用が厳しい状況のなかで、教育学部自体が大きな曲がり角に来ている。しかし、それぞれの部署が主体的に生き残りをかけてパイの拡大に努める以外、だれも援助してくれない。教育学部が生涯教育課程を設け、新講座を開設して学校以外の指導者育成に本腰を入れ始めたこと、地域との連携に踏み切ったことなど、時代の要請とはいえ、将来の光を求めて教育学部の勇気ある挑戦に注目したいものである。

☆ 18年振りの同窓会名簿の発刊

師範時代から年輪を重ねておおよそ70年。同窓会員の数も随分増えた時代の波を浴びながら今日まで元気に活躍しておられる先輩もいる。既に他界されている先輩も多い。今回、18年振りに同窓会員名簿の作成には大変な苦勞があったと想像される。総務会と組織部会が結集して、この作業に当たられた。まだ若干の在庫があり、希望者は早速事務局に。

☆ 「岐大論文」応募者の増加

第14回を迎えるこの教育実践研究助成事業、今年は1471名の応募者があった。その中で特筆すべきは40代、50代の先生方の応募が増えたことである。学校運営の中核として先生方がこうして自分の実践をまとめ頑張っていることに心より敬意を表したいし、頼もしさを感じずにはいられない。変化する時代を見据え、先見性のある強力なリーダーが今日ほど望まれることはない。嬉しいかぎりである。

☆ 教科別同窓会の活発な動き

小生自身がびっくりした。こんなに活発に定期的に集い、懇親を深め継続して実践研究に勤しんでいる教科があることに。定年を迎え、しばらくすると、どうしても人が恋しくなる。お互いに気楽な友が欲しくなる。恩師や仲間の消息も気になる。そんな年齢になったのだ。若々しい現役の実践、卒業論文の発表、恩師のその後の生きざま、仲間の元気な姿に接する機会に恵まれて彼等から活力をもらいたいと思うことしきりである。(f)

第5号 平成11年11月発行

〒501-1193 岐阜市柳戸1番1

発行者 宮川 清司

岐阜大学教育学部内

発行所 岐阜大学教育学部同窓会

TEL・FAX 058-293-2344